

# 南洋振興父の歩みたどる

戦前、日本が委任統治した南洋群島の行政機関として、現パラオ共和国コロールにあった南洋庁の内務部長を務め、戦後は湧谷町で暮らした故堂本貞一氏の次女が、父の足跡をたどったDVD「想いを受け継ぐ パラオ+日本」を制作した。

## 次女・西さんDVD制作

DVDを作ったのは、情熱を傾けた父の事績を東京都在住の法律事務所 通じ「次世代に歴史と志事務長西のり子さんをつなげたい」との思い(73)。生後間もないころから昨年11月、現地を取らした。現地の文化、習慣を尊重しながら振興に



西のり子さん

南洋庁長官に次ぐナンバ12の内務部長に就任。現地文化の研究に努め、中学校や木工学校など高等教育機関を含めた学校

## 「情熱次世代へ」取材でパラオ50分の映像に



官舎前で撮影した堂本氏の家族。左端はさき子さん、左から3人目が堂本氏。手を握っているのが西さん(1943年撮影、西さん提供)

建設やコロールの都市整備 戦時も任務に当たった。備に手腕を振るい、40年46年1月に日本に引き揚の「南洋神社」建立に携 げ、妻さき子さんの実家がある湧谷町で生涯を過 した。俳句に親しみ、絵 大戦の激戦地となり、堂 面もよく描いたという。 本氏は家族を帰国させて 映像では堂本氏の事績 エキ氏が出演。「お年寄

DVDにはパラオの前 駐日大使ミノル・F・ウ 家族が暮らしていた官舎 の建物の一部も見つかつ た。 親日的な国とはいえ、 西さんは元統治国として 史実や表現などには注意 したという。「父は南洋 の文化を壊すことなく、 歩み寄ることで発展に尽 した。父の慈愛と自己 犠牲の精神を尊敬してい る。これからも西国が手 を取り合っているよう 祈りたい」と話した。 県内では蔵王町にパラ オからの引き揚げ者が入 植した北原尾地区があ り、トミー・レメンゲサ ウ大統領が2001年8 月に訪問している。 西さんは29日、都内の ホテルで鑑賞パーティー を行う。

をはじめ、今も日本語を ラオと日本の生活・習慣 は似ている。今も日本の 国が一番よかったと思 う」と流ちょうな日本語 で語っている。

堂本 貞一氏 1893年12月、神戸市生まれ。東京外国語学校(現東京外大)ドイツ語科卒。1920年、逓信省に入り、その後、朝鮮総督府や外務省などで勤務。36年、勅任官の待遇で南洋庁内務部長に就任した。44年に退官、朝鮮商工経済会理事長に就任。66年1月、73歳で死去。墓所は湧谷町の龍淵寺。

パラオ共和国 太平洋マイクロネシア地域にあり、1994年10月1日、米国の太平洋諸島信託統治領から独立。200以上の島々から成り、面積488平方km、人口約2万人。首都はマルキョク。主要産業は観光で、特にダイビングが人気がある。年間10万人を越す観光客のうち、半数近くが日本人という。